

1. 地域農業の状況

○ 香川県の小豆島は、県都高松市から北東沖20キロの瀬戸内海に位置し、土庄町、小豆島町の2町からなっている。



○ 農業は観光業や食品製造業等とともに島内の基幹産業として発展してきた。島内の農地は、平坦地が少なかったこともあり、棚田や段々畑が多く、しかも面積が狭小であったものの、水稲の外、温暖な瀬戸内式気候を活かして、オリーブやみかんなどの栽培が盛んであった。
しかし農業者の高齢化、後継者不足、鳥獣被害などの影響により、荒廃農地が増加し、今後一層増加することが懸念されている。

○ 土庄町も農業の新たな担い手の確保のため、農家の後継者を中心に認定新規就農者への誘導を進めるほか、地元食品製造業等の企業による農業参入を促進するため、荒廃農地となった農地の所有者と企業との間で、農地の賃借が円滑に進むよう努めてきた。

○ また、近年は「地域活力の低下」を町の課題と捉え、地域の産業や伝統行事を支える「チカラ」を求め、県外からの移住促進も積極的に進め、小豆島への移住を機に農業に取り組む定住者も現れている。



2. 地区概要

取組主体	株式会社 イズライフ	地区名	伊喜末（いぎすえ）地区
再生面積	0.38ha	取組年次	平成30年5月～令和2年3月
作付作物	オリーブ	販路	消費者への直販

3. 取組内容及び効果

ターンした新規就農者による荒廃農地の再生

○ 取組主体の概要
株式会社イズライフ 代表 堤祐也氏は、18年前に母の故郷である小豆島にターンし、他産業を経て本格的に農業に就農した。

移住当初からオリーブのある風景を守りたいという気持ちが強く、就農にあたってはオリーブを選択し、また栽培するだけでなく、消費者に直接小豆島の特産品を届けるために加工品開発へ取り組み、あわせて経営を法人化した。

○ 荒廃農地の解消
法人化を契機に、規模拡大を進める中で、町・農業委員会等は集約的に農地を借受けできるよう、荒廃農地となっていた複数の地権者と借受の調整を行い、再生整備することとなった。

○ 規模拡大と生産の合理化
まとまりのある農地を確保できたことで、栽培管理の省力化が図られた。
堤代表は、故郷の風景を守り、消費者に小豆島の魅力を伝えていきたいと考えている。



荒廃農地解消前



解消後

〔令和3年度末：経営面積を2.7haまで拡大〕

活用した支援策	H30 荒廃農地等利活用促進交付金（国） R元 荒廃農地等利活用促進事業（県）
---------	--